

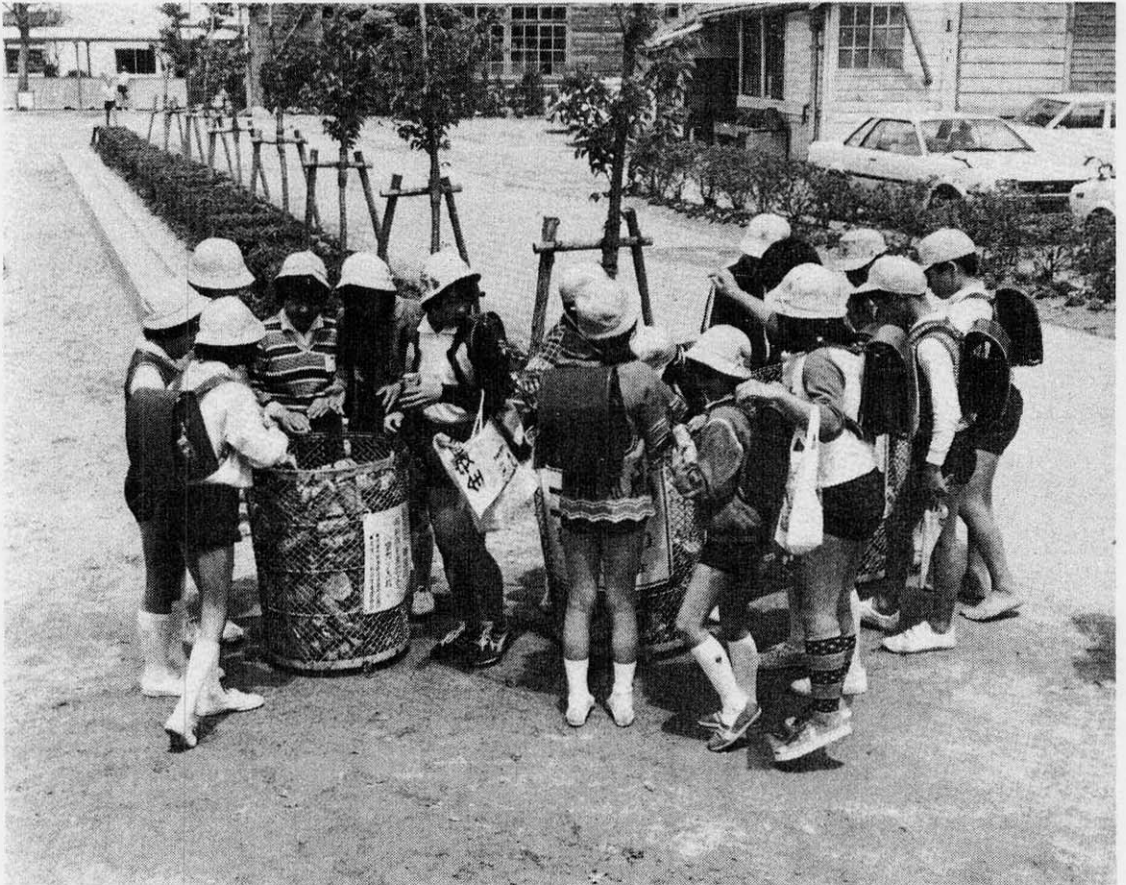


わたしたちの真心が  
ユニセフを通して  
世界中の友だちに  
伝わっていきます。

アキカン運動を始めて  
三年  
毎週金曜日は  
学校中が  
アキカンを持って  
登校しています。

三万一千四百九十円  
去年一年間  
わたしたちが集めた  
お金です。

昭和55年5月1日  
編集・発行  
岡崎市教育委員会



(アキカン運動—広幡小)

私は二十五年余の裁判所調停委員を退任後も引き続き人権擁護委員として、人生の裏面ばかりを眺めてきた関係か、市の社会教育委員の立場にあつてもこの面に気を取られることが多いのです。

私が調停委員在任中に扱った家事事件の中で離婚問題の件数が非常に多くなつてきていましたが、昨年の厚生省推計発表による五十二年と五十三年の対比を見

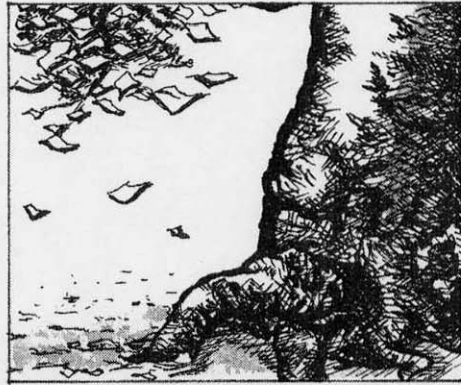
—教育随想—

# 思いのまま

峰 沢 佳 行

て驚きました。即ち四十秒に一組の結婚が一％減、十九秒に一人の誕生が六％減、四十六秒に一人の死亡が二％減であるのに反し、三分五十四秒に一組の離婚だけが二％増という現状であります。今後これに関連しての色々な課題、つまり夫婦は別れた以上元の他人にもどるが、子供は親が別居して何処で生活しようとも、親子のえにしは絶対に切り得ないもので

あるという問題をはじめとし、親には扶養の義務があり、教育の義務があり、かつ正常を欠く生活上の諸問題が多々あることを思い、心を痛めるものであります。次の事例も暗い面をさらけ出すことになりませんが、昨年十一月十一日付中日新聞に、千葉大竹田教授が名古屋屋におけるシンポジウムでの発表の中で、学生・生徒の妊娠中絶の実態についてふれた記



事が載っていました。最近の十年間に二〇七件を扱ったが、前半五年が六三、後半五年が一四四と激増しています。内訳をみると、高三(七八)、高二(六六)、高一(三〇)、中三(一九)、中一(八)、中一(三)小(三)となつています。しかもこの数字は竹田医師一人の扱ひでありますので、これから推測してみると実に大きな数字になるのではないかと思わ

れます。

また、妻に先立たれた八十二歳の老父が、中流以上の生活をしている三男三女の誰からも面倒をみてもらえず、長男の家の倉庫の二階で電燈もない淋しい生活をしているのが堪えられないといつて法務局へ相談に訪れられたという事例もあります。この件は、親に対する扶養の義務の重要性を子供に対して説くと共に、親子の対話の欠如から生じていた感情のしこりを徐々に和らげながら説得を重ねた結果、子供が全員で費用を負担し合つて有料の老人ホームへ入つてもらうことで和解決しました。

私は、ここにいろいろな事例を挙げてきましたが、これらの問題は、どれも社会教育と学校教育の一環として考えるべき点があると思います。しかし、それをどうしたらよいのか、どうすべきかとなると全くの難問であり、即答に苦しむ問題であります。全く社会教育ならびに道徳教育のむずかしさを感じると共に、その必要性を痛感するものであります。私は夫婦・親子・親せき・師弟・友人・隣人等のあらゆる人間関係の中で、対話と融和について努力することが何よりも必要だと考えるものです。

岡崎市社会教育審議会々長  
岡崎地区人権擁護委員長

峰 沢 佳 行



サントリーニ島

片山 美恵子

ロードス、ミコノス、クレタと素晴しかった島巡りを終え、エーゲ海の船旅もいよいよ最後、憧れのサントリーニ島である。紺碧の空と海の間には静かに佇む純白の町と教会。期待に胸はずんだ。ところが、たいへんなことになった。船が着いたのが見上げるような断崖絶壁の下。憧れの町はその上。急傾斜の文字通りの九十折の細い石段を馬に乗って登るのである。私は、馬などともに乗ったことがない。しかも、見るからに老いさらばえたやせ馬に命を預けて、断崖を登らねばならない。おびえながら高いお金を払い、西洋雲助おじさんに「ヘイマダム」とおどされて老馬にまたがった。足は登ら届かず、必死に鞍にしがみつくとまわりの外人さんのように景色を楽しみ余裕など全くない。老馬はいやな客を振り落そうとするかのようにゆらゆらりまたまた。死ぬ思いの十五分程でやっと憧れの町に着いた。ふと反対側の下を見ると、何とバスが通つているのである。



—ふるさとの山河—

# 愛宕山

愛宕山は、二六一五年建立の栄久寺（現在は廃寺）の山号に由来する。康生の頃は北東に位置し、海拔およそ五十五メートルの小高い丘である。

その頂上には、一際目立つ丸い塔がある。これは岡崎市で最初にできた上水の配水塔であり、「六供浄水場」のシンボルである。山腹には、傾斜を利用して階段のように高級住宅が建ち並んでいる。また、岡崎城の鬼門にあたるこの山に、江戸時代より続く由緒ある寺々がある。愛宕山は、これらの寺と新しい住宅がみごとに融け合い、緑にも恵まれたところである。

今から六十年ぐらい前は、北面に桑畑や麦畑が広がり、南面は雑木林がおおい、野兔が走り回るほどの寂しい所であった。そこには大八車を引く百姓が通るだけの細い道が数本あっただけという。

昭和八年には、「岡崎市六供浄水場」が完成し、同十一年には「愛宕小学校」が開設された。特に小学校建設工事では、頂上より十メートルほど削り取り、その土で元連尺小学校付近の城の外堀や板屋町の一部まで埋めたそうである。その後、人家のなかつた山中にも一軒、二軒と家が建ち並び始めた。

また、大正の初めから昭和十年頃まで、この山からも石を切り出していたようで、今でもその跡が数ヶ所ある。それはこの山の基盤が花崗岩であるためで、そのことから別名「みかげ山」とも言っていたようである。

さて、愛宕山には「おふく亀蔵塚」の伝説をはじめいろいろの言い伝えがある。その一つである「地蔵ヶ入」の話によれば、昔この地にあった霊験あらたかな地蔵様が、いつの間にか所在不明となって

いた。時を経て昭和の初期のころ、岩月彦太郎氏は、夢枕に地蔵様の御告げを聞くことができた。牧幸太郎氏とともに一ヶ月の間も矢作川で水浴精進した後、山の谷あいをおよ一メートルほど掘ると、一尺余りの地蔵様が見つかった。抱き上げると全身が急に震え、これこそ霊験あらたかな地蔵様だと思つた岩月氏は、さっそく自宅の庭に御堂を建てて丁重に祀つた。現在は伊賀町地蔵ヶ入にある御堂がそれである。

浄水場や愛宕小学校ができると聞いた古老は、「有頂点になって喜んだ」という。小学校開設に多くの協力を惜しまなかつた学区民にとつて、愛宕山と愛宕小は一体であつた。愛宕山は親切な心温かい学区の人々から小学校とともに愛され親しまれている。  
(元愛宕小伴野俊幸)



あの難行苦行の道は観光客用だった。美しい夢の町も商魂たくましい国際観光地であつた。  
(山中小)

## 空襲警報発令

近藤 豊

「ウー ウー ウー」  
けたたましいサイレンの音と同時にホテルの部屋の灯りは消され、韓国での初夜は防空演習で始まつた。

勿論、夜間外出は禁止されているので、飲むより手はないとばかり酒宴とあいなつた。

そういえば、韓国への第一歩を印した金浦空港でも「警戒警報」ということで多くの市民が最寄りの建物に避難する場に出会つた。

今日は年に一度の防空演習の日であることをガイドさんに聞いてはいたが、酒を飲み交わしながら、私たちは第二次大戦の終りに近い、あの暗い時代を思い出していた。

そのうちに、キアタピラの響きと共に市内の目抜き通りを大型戦車が走り、空にはヘリコプターが去来し、道路を走行中の車は停車し、往来は韓国軍の兵隊の訳のわからない声だけがやけに耳に入る。ホテルの窓から、その徹底した韓国の「臨戦体制」に驚くとともに、日本では想像も及ばないことを話し合いながら、祖国に想いをはせた。

(美川中)



## 20 のぼり

五月五日の端午の節句に男子の健康と出世を祈って立てる鯉幟。

江戸時代に菖蒲（尚武）の節句として、武家階級では家紋をしるした旗指物や幟などを玄関前に並べ立てたが、これに對抗して江戸中期以後、町人が武具のかわりに、五月の青空露水にみたて鯉幟を立てるようになったといわれる。

端午の節句を前に、市内の福岡町に鯉幟屋があるときき、取材に出かけてみた。

この道六十年という職人さんが「昭和の初めまでは、和紙を鯉の形に張り合わせ、染め汁は顔料を大豆の汁を使ってとぎ、一匹ずつ作ったもんだが」と武者幟の紋の筒びきをしながら説明して下さった。現在では、化繊で型染めしてあるものを大手紡績工場から送ってくる。それを、ここで裁断し、内職として縫製に出

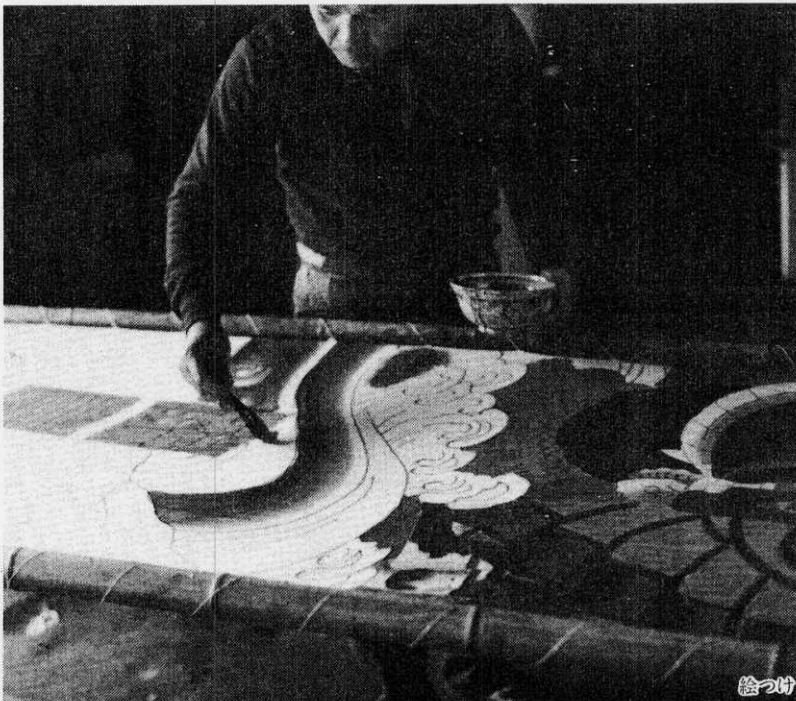
し、仕上げをするようにしているのとのである。

武者絵幟は昔ながらの方法で製作している。白綿布の厚地を型わくにはめてロープで張り、下絵を置き、大型伸子針で固定し、渋紙で作った筒（つつがっぱ）にもち米を砕いたものにこぬかを入れて煮たのりを入れ、筒引き（線を書き込む）をして、天日乾燥をさせてから刷毛で手染めして、乾燥し糊落としをする。昔は川で糊落としをしていたが、現在は大型水槽を使用してのことであった。糊落とし後、乾燥、仕上げをする。なお、上部には二引きと日紅を使って家紋が書き込まれる。

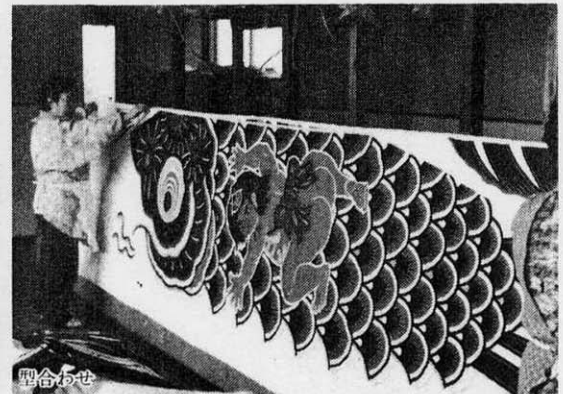
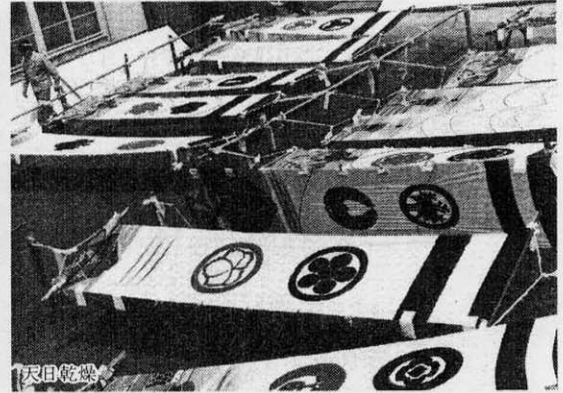
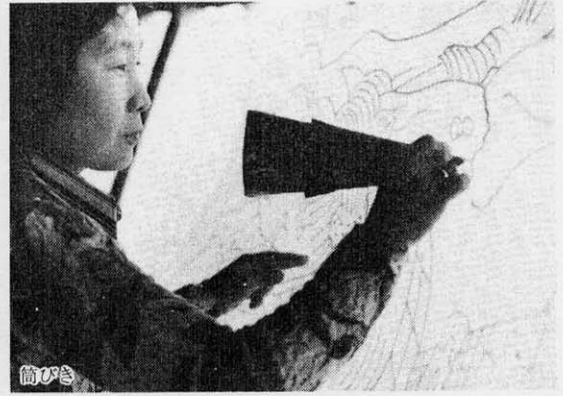
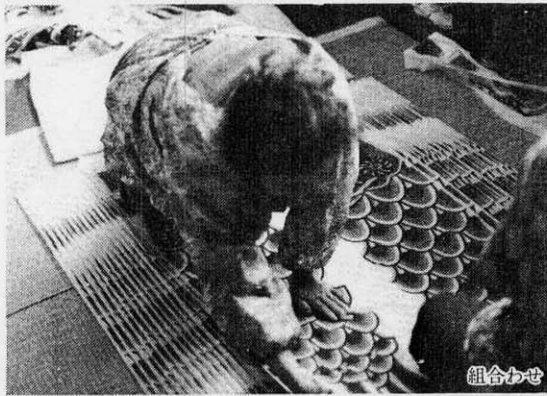
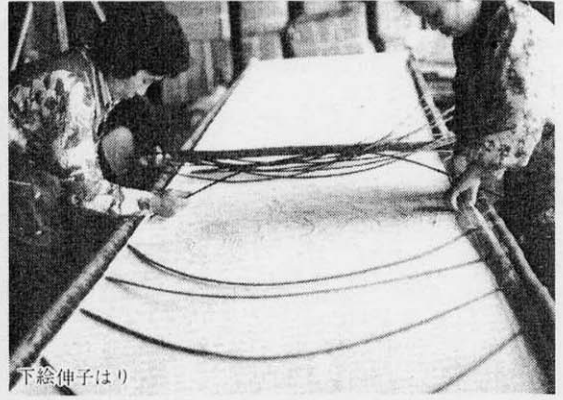
工場の庭先きの広場には、武者幟がたぐさん干され、その間を縫うように仕事に追われていた。



武者絵幟



絵つけ

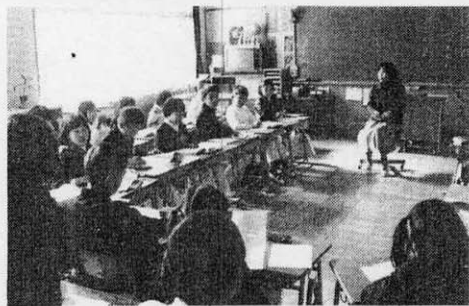


# 教育日々



## 詩をかく子ども

六名小 神尾美佐代



題材と言えば行事しか浮かんでこない。こんな子どもたちに詩を書かせてみたいと思つたのは、ずうつと以前からの願い。四年生で初めて書いた詩といえは、

とかい  
とかいほど交通事故が多い  
いやだな

北きよくぐま  
動きそうだ

ひとこと言えば、次から次へと連想ゲームまがいに単語を発する子ども達。ひらめきは素晴らしいのだが、それが地についていない。物の見方もまたしかり、発想は良いのだが、じっくりと見つめることは少ない。作文の

みらいの学校  
学校でもらつたしたじきみたいになるかな  
思いつくままにノートに書きなぐっている。たつた一行の詩でも良い点を見つけ認めてやる。詩の時間になると、子どもたちは何を書こうかと四苦八苦。

### 詩

二時間めは詩の時間だ。  
先生は書かない。  
いいなあ、ずるいなあ。  
わたしはぜんぜんいい詩がうかばないのに。  
わたしはいやだ。  
先生は  
みんなの詩を読みながら  
わらっている。

このように苦しんでいる中か

ら生活のみつめ、対象のみつめ直す力もついてくる。誰もがよく知っている詩を口ずさみながら、知らず知らず詩の形を体で覚えることも試みてきた。そのうちに「先生、詩を書こまい。」と言ひ出す。書いたらほめる。とにかく良いところが少しでもあれば、そこを大げさにほめる。このことに徹してきた。

### うちゅう

うちゅうって  
はてがなからおもしろい。  
はてがなかつたら  
どうなるんだろう。  
うちゅうって  
どれくらい前からあるんだろう。  
五千億年かな、  
いやもつとだろう。  
ほくには  
ぜんぜんわからない。

詩としてはまだまだであるが  
行事を書くことが、文を書くこと  
だと考えていた子ども達の頭  
の中も、多少の変化があるので  
はないかと期待している。

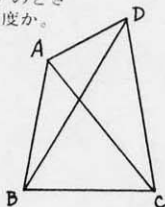
## 「先生、解けたよ」

東海中 岡田 哲弥

E子は学年でもトップクラスの  
頭脳の持主である。ある日、  
「先生、何かおもしろい問題あ  
るう。」  
と言つて職員室の私のところへ  
やつてきた。

その時、一年前、先生たちの  
間で話題になった、ラングラー  
の問題をふつと思ひ出した。  
それは次のような問題であつた。

ABCDで  
∠BCD=80°  
のとき  
∠ABC=60°  
∠ADC=50°  
は  
∠ABC  
∠BCA  
∠CAB  
∠ACD  
∠CDB  
∠BDC  
∠ADB  
∠BDA  
∠ADC  
の  
∠A  
∠B  
∠C  
∠D

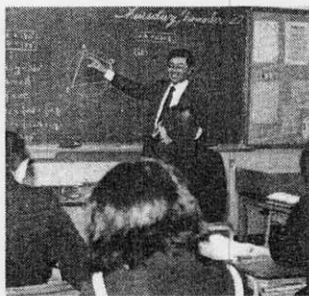


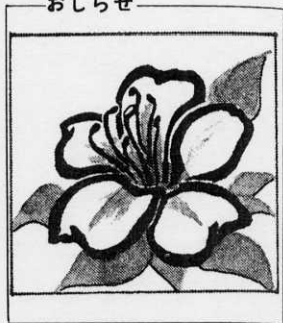
彼女の輝いた目を見て安心した  
と同時に、根気強く難問に取り  
組んだことに感心もした。それ  
からのE子は、自分で問題を求  
めては、黙々と考えていた。  
数学ほど得意、不得意のはげ  
しい教科はないが、前記のよう  
な例をきっかけにして、数学の  
とりこになる場合が多い。  
自分の力で問題が「とけた」  
「証明できた」というひとつの  
壁が突破できた瞬間の喜びを味  
あわせてやることだと思ふ。私  
は常にこのことを念頭に入れて  
毎日の授業に取りこんでいる。  
ひとつの問題に長時間取りくむ  
ことは、自分の知っている公式  
や定理を総動員して考えている  
はずである。したがってそれら  
の知識の定着にもつながって一  
石二鳥である。

一見やさしそうに見えるこの  
問題も私自身二日くらい考えて  
苦勞して解いた記憶がある。少  
しむずかしいかなと思ひながら  
E子にあたえた。

しばらくして、  
「先生、できたよ。この証明で  
いいじゃないですか。」  
と息をはずませてとんできた。

「どれ、どれ……。やあ、でき  
たね。何日考えたの。」  
「一週間。」





# 喜びの受賞校二校

・連尺小・ブルーバード賞  
・秦梨小・少年消防クラブ全国表彰

連尺小は、昭和三十九年四月に学区の岡崎公園の清掃奉仕を始めた。その後、市が中心になって同公園の清掃を始めたため、今では毎年冬に一回、全校児童が出て清掃活動をしており、十六年間の伝統にたっている。

また、日ごろの小遣いの一部をためる「一円募金」を行ない、年の暮れにはこの資金をもとにブレゼントを購入、市内の老人ホームや児童福祉施設などを感問している。これらの活動のおかげで、学区の人との交流も一だんと深まってきているという。

秦梨小では、このたび少年消防クラブで最高の賞である「表彰旗」と「表彰状」を授与された。これは同クラブの火災予防思想の普及につとめた功績が顕

〔寄贈刊行物・資料等〕

- ◇岡崎の視聴覚教育11号 B5 一〇四ページ ライブラリー
- ◇岡崎の学校保健31号 七八ページ 岡崎市学校保健会
- ◇新任教師の集いに学ぶ 八〇ページ 運営委員会

著であるとして消防庁長官の全国表彰となったもの。  
昭和五十五年  
岡崎市小中学校長会役員決まる

- (小中学校長会)
- ▼会長 榑田梅芳(連尺小) ▼副会長 神谷卓爾(南中) 岩月貞夫(梅園小) 太田昇(六ツ美中) ▼監査 高橋孝(大門小) 小林績(東海中) ▼庶務 沢田真(根石小) 犬塚鑑治(美川中) ▼会計 鈴木依治(竜美丘) 大賀真一(葵中) ▼評議員 三井光治(藤川小) 小林重勝(矢西小) 石川博(三島小) 稲垣茂(六名小) 荻野富義(広輪小) 岸田達夫(緑丘小) 加茂正雄(岩津中) 神谷四士保(福岡中) 横井滋(城北中) 浅井凌一(甲山中) 渡辺尚三(竜海中) 長嶋利

◇放送番組と学習指導関連表(六分冊)ライブラリー視聴覚部  
◇藤川小の教師6号 藤川小現職教育委員会

- ◇本との対話4・やまなみ(句集) 美川中学校現職教育委員会
- ◇実践記録学級会活動 現職教育委員会特活部

一(矢作中)  
(小学校長会)

- ▼会長 岩月貞夫(梅園) ▼副会長 石川博(三島) 稲垣茂(六名) ▼監査 高橋孝(大門) ▼庶務 沢田真(根石) ▼会計 鈴木依治(竜美丘)
  - (中学校長会)
  - ▼会長 神谷卓爾(南) ▼副会長 太田昇(六ツ美) 神谷四士保(福岡) ▼監査 小林績(東海) ▼庶務 犬塚鑑治(美川) ▼会計 大賀真一(葵)
- 児童生徒の事故防止対策に万全を
- 本年度になって児童の水難事故がすでに二件。また、消防署の調査によると、子どもが原因による火災事故等、昨年に比して増加していること。新一年生もようやく学校に慣れたころ、交通事故にも万全の指導をお願いします。

## 55年度

## ●児童・生徒数・教職員数の実態

55.5.1 学校基本調査より

区分	学校数	学級数 (特殊)	児童・生徒数			校長・教員数 (非常勤講師を含む)			養護教員		事務職員		栄養職員
			男	女	計	男	女	計	県	市	県	市	県
小学校	38	741 (30)	14,500	13,775	28,275	502	486	988	38	2	39	25	7
中学校	14	264 (17)	5,567	5,370	10,937	337	140	477	14	0	20	5	0
合計	52	1005(47)	19,103	19,145	39,212	839	626	1465	52	2	59	30	7
54年度計	52	958 (44)	19,103	18,326	37,429	810	603	1413	52	2	57	30	7

## ●学年別児童・生徒数

## ●学級・学校の規模

学年	小学校			中学校		
	男	女	計	男	女	計
1年	2,566	2,503	5,069	2,389	2,213	4,602
2年	2,546	2,545	5,091	2,188	2,037	4,225
3年	2,515	2,381	4,896	2,207	2,043	4,250

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	744人	781人
1校当たり学級数	19.5学級	18.9学級
1学級当たり児童・生徒数	38.2人	41.3人



所在地—岡崎市伝馬町

## きらみち道標

康生郵便局から東へ約八十メートルの十字路に、高さ一メートルほどの道標がたっている。

戦後竜田公園に移され、さらに八帖町へ移転。それから、明治二年にたてられた当初の位置にもどされたという。

北へ「東京みち」、西へ「西京いせ道」とある。東海道は、東からくると伝馬通の旧東映劇場から左に折れ、そして、この道標のところで右に折れていたことを示している。

また、南へは「きらみち（吉良への道）」とあり、六地藏町の坂を下っていくと、菅生川にかかる明代橋の少し下流に出る。その堤防の下に、木の橋があったそうである。愛電の開通した、大正十二年ころの話である。

二、三か所ひびがはいっているが、昭和二十年の岡崎空襲でおれた跡だという。戦争の傷跡がここにもある。明治・大正・昭和と、それぞれの時代の歴史を秘めた道標である。

●カッター  
六ッ美中 志賀孝人

## この本を

- 無所属の時間 山本 七郎 ￥ 980
- 箸と狙 鳥越憲三郎 ￥ 980
- 笑いの構造 梅原 猛 ￥ 920
- 時間意識の構造 小原 信 ￥ 980
- 神の汚れた手（上・下） 曾野 綾子 ￥ 980
- 折々のうた 大岡 信 ￥ 320
- 子供たちが算数で落ちこぼれる時 吉川 正澄 ￥ 980
- ことば四十八手 井上ひさし編 ￥ 920
- 言葉の落葉 開高 健 ￥ 1,500
- 地震の科学 地震学会 保育社 ￥ 430

落ち着くひまもなく、「先生、これどうする。」と子供の声。放課ともなれば、日新しさから子供が周りに渦巻く。無視すれば、手を引つ張られたりたたかれたり。ふと見ると二、三人ずつかたまつて、教室のすみでおとなしくしている子供、積極的な子に目を奪われがちな毎日、気をつけなければ、

新緑の中に勇ましく泳ぐ鯉のぼりはいつになつてもなつかしい。

子供のころ、青竹を山から切り出し、滑車に手際よく綱を渡し、三匹の鯉を上げてくれた父親を尊敬もした。音のしない矢車であったが、それが回り、鯉が泳ぐたびに胸をおどらせたのも印象深い思い出である。

## シオシア

新しい教育課程になって、新しい内容の教科書でスタートした小学校。教科書もずいぶんきれいになった。兄や姉は兄や姉のために大切に使い、弟や妹は弟や妹のために古しを肌と感じながら使った教科書はもう過去のこと。立派な教科書を有効に使って教育の成果をあげるためにがんばろう。

すてきな人ってどんな人。  
「先生、先生。〇〇先生ってかっこいいよ。」

「脚が長くって、ハンサムでね……。」  
「そう言い残してかけていった六年生の女の子。テレビで養われた現代っ子の尺度は若さと、顔だちと、フィリングと、？ さしづめ昭和一けたは、対象外である。」